

第8回 逗子海水浴場の運営に関する検討会 概要

日時：令和6年10月10日（木）

14時30分～16時30分

場所：逗子市役所5階 第1・2会議室

出席者

〔メンバー〕 田中 美乃里、飯野 幸、山口 学、瀬田 敦子、菊池 俊一、横山 健
山上 寿美、勝田 康司（菊池 千春代理）、岡田 和夫、横山 奈緒子
高松 智一、若菜 克己、福井 八洲雄、岩佐 正朗、（順不同、敬称略）

〔オブザーバー〕 鎌倉保健福祉事務所環境衛生課、横須賀土木事務所許認可指導課
公益財団法人かながわ海岸美化財団

〔事務局〕 逗子市市民協働部経済観光課

課長 黒羽 秀昌、係長 楠元 仁、専任主査 稲井 麻美、主任 佐藤 怜
主事 宮上 敦久、主事 小林 健吾

欠席者

〔メンバー〕 菊井 健一、熊岡 寛展、黒田 尚弘、來嶋 政史、徳本 恒徳

〔オブザーバー〕 横須賀三浦地域県政総合センター企画調整課、逗子警察署地域課

会議公開の可否

可

傍聴者

5名

会議次第

1. 開会
2. 議題
 - （1）令和6年度逗子海水浴場の運営報告
 - （2）その他
3. その他

配布資料

資料1. 令和6年度逗子海水浴場報告書

資料2. 令和6年度逗子海水浴場試行的取組の実施結果報告書

1 開会

- ・事務局より、検討会は傍聴できることと、マスコミの頭撮りについて説明を行った。
- ・事務局より、配布資料及び参考資料の確認を行った。
- ・変更のあったメンバーの紹介を行った。
①福井氏（逗子市新宿自治会）②山上氏（逗子市防犯協会）
- ・本日の会議の趣旨説明を行った。
 - 令和6年度逗子海水浴場の運営について、逗子市作成の報告書に基づき今夏の状況を報告させていただき、各メンバーから所感等をご発言いただきたい。

2 議題

(1) 令和6年度逗子海水浴場の運営報告

- ・事務局から資料1「令和6年度逗子海水浴場報告書」、資料2「令和6年度逗子海水浴場試行的取組の実施結果報告書」に基づいて、今年度の海水浴場運営について報告を行った。
- ・質疑等なし
- ・各メンバーから今年の夏の所感について、発言があった。
 - 大きな事故なく66日間終えられてほっとしている。報告書の5ページで救護所取扱件数のクラゲが昨年度から減っているが、市に相談して対応を大幅に変えた。これまで使用していたクラゲスプレーをやめて寄り添って症状を聞いてアドバイスした。そういった理由で減っていると思うが、来年度に向けて市と検討し対応を決めていきたい。30ページの衛生面の取組として、看護師からの提案で生理用品を救護所に置いた。必要な方は救護所にありますというチラシをトイレに張り、実際に数件の利用があった。来年も市に相談の上、実施していきたい。管理者として浜にいられたのは10日もなかったが、浜の方の取り締まりは緩かったと感じている。タトゥーを出している人や酒を持ち歩いている人が見受けられた。件数が減っているのは、そういうことが表れているのではないと思う。クラブとしても協力していきたい。
 - 人が少なかったイメージがある。マリンスポーツは例年並みであった。水上バイクはマナーが良くなった。スピーカーの効果が大きいのではないかと考えている。少しずつ逗子に対してマナーを守ろうとする意識が上がったように思う。今年はマリンスポーツエリアで泳ぐ人もいなかった。いつもはコーンを置いて機材を置くスペースと通路を分けていたが今年は必要がなかった。流木の打ち上がりが多かった。マリン連盟でも撤去作業をしたが、追いつかなかった。これだけ多いと危ないため、市と今後について相談していきたい。
 - 散歩をしていて、マナーアップ警備の効果で落ち着いていると思っていたが、他のメンバーの意見を聞いているとそうだったのかと感じる。音楽イベントも静かだったと思っており、開設前は心配だったが結果的に苦情もなくよかった。所属する団体の中でもよかったと話があった。自治会のアンケートをよく読もうと話している。
 - 田越川沿いのごみが増えることを心配していたが、それほど多くなかった。津波訓練で蘆花記念公園までの避難はよかったため、来年も続けてほしい。海水浴場期間外の利用者にもどこに避難したらいいかを周知できると良い。シークレット花火の概要がよくつ

かめていなかった。意図は分かるが、突然音になると困る家庭もある。事前にわかると対策もできるため、教えてほしい。

- 住民に逗子海水浴場についてアンケートを取っている。次回の検討会で報告できればと思っている。ほぼ毎日海水浴場の様子を見たが、人が少なかった印象で、報告書の人数を見て驚いた。平日は300人くらいだと思っていたため、結果は多いなと思った。鎌倉は花火で人が増えているが、花火を抜くと実際は結構減っている。シンボルロードを歩く人の半分以上は外国人かなというイメージがあった。外国人のために海水浴場をやっているのかという気にもなってくる。音楽イベントには毎回立会った。海岸組合の事前の調整に関してはご苦労様と言いたいが1件だけ音が漏れており、もう少し観客の声援を抑えられないか。海岸組合が街中のごみ拾いをしているのは承知しているが、私も週3回やっていて、コロナ以降道路のごみの状況は良くなっていると思っていたが、月曜、水曜はボランティアごみ袋がいっぱいになる。
- 海の家で複数人泥酔者を出す事態があったが、職員の対応がいけなかった。海を家のルールの認識不足ではなくダメなことをやっている。これまで海水浴場でいろいろなことがあったが、海の家が開き直るのは初めてであり、ひどいと思う。店長は謝ったが、責任者は謝っていない。このような状態ではファミリービーチなどと言わない方がよい。極端な意見だが、ルール違反を繰り返す常連の外国人がいなくなる限り外国人はいらないと思う。
- 海の家としてもこの夏、何もなかったとは思っていない。トラブルはあり、改善しないといけない問題だと思っている。しかし、全体としては大きな事故やトラブルはなかったという見解でいる。猛暑で海水浴客は減っている。これまでのように午前中に来て、海に入って、シャワーを浴びてという海の家利用者は激減している。午前中に海水浴に来ている人はほとんどいない。15時以降に来る人が多く、更衣は使わず、ちょっと涼んで帰る程度である。これが課題だと思う。
- 6月6日間安心安全で、大きな事故やトラブルなく終えることができ、関係者に感謝申し上げる。今年の夏をどう印象付けたかと考えると、暑かった、砂浜に人がいなかったということになると思う。35日熱中症アラートが出て、気象庁が涼しい場所に居てとアナウンスする状況で、海に行こうとはならない。自然環境がだいぶ変わったうえに、コロナを経て社会状況も変化があった。その中で海水浴場に来る客が短時間の利用に変化してきていると感じる。顕著なのがウォーターパークで、利用者は増えている。目的を持って海に来ており、ニーズの変化を感じる。来場者が減ると違反も減るが、逗子の最大の観光資源をどのように今後有効活用していくのが課題である。安心安全と観光資源のバランスが課題であり、だからこそ試行的取組を実施した。これまでも昭和42年に200万人以上の最多の海水浴客がいて、増えたり減ったりしていたのだと思う。10年前の条例改正で70万人から40万人に減った。こういう状況が来た時に今までは海の家が趣向を凝らして人を増やしてきた。10年前は結果的に風紀が乱れて条例改正をしたが、今後は海の家だけでなく、どのようにやっていくかを地域全体で考えていく必要がある。
- 報告書21ページにあるとおり全ての子ども向けイベントを開催できた。熱中症に十分注意して行だったが、熱中症アラートで当日キャンセルが多かった。その結果、参加者数が減っているが、申込ベースで見れば前年並みの参加者だった。マリンスポーツはパ

ターンを変えて募集人数を増やしたが、それでも3倍から4倍の申し込みがあった。参加者は市内在住者が7割くらいいた。

ウォーターパークは最初の一週間は休業、お盆に台風で撤去、進行の遅い台風で最後の週は日曜日に撤去して1週間営業できなかったが、繁忙期に営業できたことで昨年を上回る利用客があった。市外の利用者が7割であった。

夕涼み企画は海岸組合の企画に観光協会が参加しており、報告書の250人は観光協会がやっていたスーパーボールすくいの人数で、この3倍くらいはいたのではないかと思う。引き続き実施していきたい。ルール違反については、全体としては数値的には減っているが、ルールを守らないリピーターのせいで悪いイメージが残っている。

- 会員で海の家やっている人の話だが、売り上げは残念な結果だったと聞いた。ファミリーイベントやウォーターパークの利用は増えていて、海の楽しみ方が全体的に違う方向にいつているのではないかと。音楽イベントで音を小さくしているため外には聞こえなかったが、観客の不満が残るのは難しい問題だが、考えていかなければいけない。参加者の満足度を上げるのか、近隣住民に配慮して苦情がないのが一番なのかは課題だと思った。違反があった場合は市の判断で中止とあったが誰の決裁で決定するのか。⇒その状況を確認したうえで市長に報告して対処する。
- いろいろな人がいろんな形で海に携わっていて改めて逗子はいいなと思った。三浦海岸の人が来て逗子を褒めてくれた。アクセスも便利でアピールすると良いと思っている。個人的に海開きと海締めが好きで、子どもも海開きをテレビで取り上げてもらったことを覚えていた。締めのライフセーバーの挨拶がジーンと来る。ライフセーバーが小学生のところで教えるのはとても良いことだと思う。津波訓練の日はキッズ防災士に参加して広島にいたため参加できなかった。50くらいの団体がいて、実際に山に避難すると話したら、他の人が興味を持ってくれた。
- お疲れさまでした。今年感じたことは外国人が多い、猛暑で昼の客が少ないということで、商店街にも反映されている。来年どうなるか分からないが、商店街としては海との連携を取りながらやっていければと思う。昼過ぎは商店街に、夕涼みから海に行くなどの周遊性を出せたらと思う。南海トラフ地震もあったが、避難時には商店街もあふれかえるため、そういうときの対策も津波避難訓練でできるといいと思った。
- 子どもたちへのイベントが盛況だった。夏休みに居場所を求める子が多く、親も行ってこいと言う。家にいると冷房で電気代がかかるためであり、海の行事やスマイルに涼を求めて行くと聞いた。来年もたくさんイベントをやってほしい。倍率高いということはニーズがあるということだと思うため、何回も実施できないか。シークレット花火も盛況だったが、難しい面もある。屈強な警備員をつけてもらえて嬉しかった。ラジオ体操をしている方々がそのまま帰ってしまっているため、その人たちがモーニング利用などで海の家を利用する工夫をしてはどうかと思った。朝ごはん食べよう、海の家を利用しよう、夕方に来てみよう、孫を連れて行こうとなれば、よりファミリービーチとして良いのではないかと思う。
- 安心安全のトピックの中身が変わってきているのかなと思う。報告書の中で熱中症や地震、津波が大きく載っている。昨年、一昨年はコロナや衛生の内容が大きかった。2020年までは風紀の乱れやマナー違反が大きく載っていた。良い悪いではなく、それが印象的だった。安心安全の取組がなくなって次の話をしているわけではなくて、継続的な取り組みのおかげで次の話ができていていると思う。何年もやっていると行われているのが当

たり前だと思ってしまうが、積み重ねで現状があることを忘れてはいけないと思った。試行的取組イベントは半分くらい見た。客は試行的取組に至るまでの背景を知らないため、音楽イベントが始まったら手を叩きたくなる。どの線を超えたらクラブ化だとかの判断は難しい。組合や市職員が対応していたのが印象的で、音が大きくなるとすぐに注意していて涙ぐましい努力だと感じた。客のアンケートに不満の声が出てくるのは状況的に仕方ないと思った。簡単ではないが試行的に取り組めるようになったのはありがたい。特定の外国人や海の家の変犯も見てきた。試行的取組の前段として、ルールが当たり前に守られないとチャレンジのきっかけもなくなってしまう。次にステップアップするときにそういったことをどう伝えていくかを考えていかないといけない。それぞれの立場から見ていて、見ている目の数、回数だけそれぞれ意見がでている。今後、事務局で来年に向けてまとめていくと思う。

本日、欠席しているメンバーの意見をレポートでも出してもらおうよう、事務局にお願いしたい。

3 その他

- ・事務局より、今後のスケジュールについて説明を行った。
 - 11月13日予定の次回検討会で来年度の課題を整理し、来年1月には報告書案作成していきたい。開催通知は改めて連絡する。

以上